

第2特集

不登校に対して 医師ができること

不登校支援において医師が担う役割

わが国では少子化が進む一方、不登校の子どもの数は年々増加しています。不登校の要因は多岐にわたり、複合的で、必ずしも医学的なものがあるとは限りません。しかし不登校の子どもは不定愁訴を訴えて医療機関を受診し、その際に医療者は不登校について相談されることがあります。医学的な視点による不登校の原因の鑑別、相談内容への対応、医療者が行う心理社会的な支援、専門機関との連携、どこまで関与するのかなど考えることは多く、対応に苦慮します。

増加する不登校児童生徒数はわが国の課題として社会全体で取り組むべきですが、そのなかで読者による医療からの支援は不登校の子どもや家族を支え、さらなる支援へつなぐ入口になります。本特集では不登校診療ガイドラインの紹介、不登校と関連の深い疾患の解説を専門家に執筆いただきました。それに加えて実践経験を共有するため、地域における不登校診療の実際や課題について一般開業医と専門家を交えた座談会を開催しましたので紹介します。本特集が不登校診療を実践するきっかけや助けになると幸いです。

編集幹事

関西医科大学総合医療センター
小児科

柳 卒 嘉 時